

高崎市 観音山丘陵の自然歩道再整備

伐採や案内板 魅力向上

高崎市のシンボルの一つである観音山丘陵に整備され、身近なハイキングコースとして利用されている高崎自然歩道(全長22キロ)について、市は2023年度から5カ年で除草や竹林の伐採、案内板の設置などによって良好な状態に再整備することを決めた。

周辺には国連教育科学文化機関(ユネスコ)「世界の記憶」の登録から5年を迎えた上野三碑のうち、山上碑と金井沢碑がある。アウトドアブームや健康志向の高まりを背景に市民の健康づくりを後押しするとともに、観光誘客につなげたい考えだ。

自然歩道は、上信電鉄山名駅や山名八幡宮(同市山名町)の近くから少林山達磨寺(同市鼻高町)まで続き、山上碑や金井沢碑、観音山ファミリアパーク、白



上野三碑の一つ、山上碑近くの高崎自然歩道



森林環境譲与税を活用

見られる。山名城址や根小屋城址はうっそうとした状態になり、市街地を望む景観が妨げられている。

再整備には、国から譲与(配分)される森林環境譲与税を活用する。市は24年度から課税が始まる予定の森林環境税(国税)を財源とする森林環境譲与税の配分を同年度以降、年間約9100万円と想定。手入れの行き届かない個人所有の森林整備に年間4千万円程度かかるの見込み、残る5千万円余りの有効活用を模索する中で、自然歩道の整備に充てることを決めた。

事業費は5カ年で総額3億円程度を見込んでいる。荒廃が激しい場所から整備を進めながら、全体の再整備計画をまとめていく。

ウォーキング人気の高まりもあり、市内を通った中山道を歩く観光客も多い。市は「歩く」に着目した事業を複数手がける。15年には、宿場町の風情を感じられる倉賀野宿に観光案内の拠点となる「倉賀野古商家

衣大観音付近などを通る。市民に親しまれる一方、竹林が生い茂ったり、橋や階段が傷んだりした場所も

おもてなし館」を設けた。烏川の水辺でも散策の魅力を高める計画が進む。市役所に近い君が代橋から聖石橋間に果樹販売施設や飲食店を設ける。市街地からの回遊性を高めるため、市

役所側から国道17号をまたぐ歩行者用の橋を15年に完成させている。

富岡賢治市長は「歩くことへの関心が高まっている。観音山丘陵に美しい散歩道を整備することで、観光面にも生かしたい」と話した。

(米原守)

令和4年第5回高崎市議会定例会

において、12月1日、白石隆夫が一般質問で「高崎自然歩道について」の質問をいたしました。質疑・答弁の内容が12月6日付上毛新聞一面に掲載されました。

役所側から国道17号をまたぐ歩行者用の橋を15年に完成させている。

富岡賢治市長は「歩くことへの関心が高まっている。観音山丘陵に美しい散歩道を整備することで、観光面にも生かしたい」と話した。

(米原守)